

ISO/IEC/JIS Plastics 事務局便り

IEC/TC89 (耐火性試験) ウラジオストク会議

IEC/TC89 の国際会議が 2017 年 10 月 10 日～13 日、ロシアのウラジオストクで開催された。参加国は、米国、中国、英国、ドイツ、イタリア、オランダ等 13 か国の参加があった。日本からは、IEC/TC89 国内委員会の吉田委員長（日本船舶用品検定協会）香月幹事（製品評価技術基盤機構）、林委員（電線総合技術センター）、早川委員（東京システムバック）及び春原（ポリプラスチック）の 5 名が参加した。

会議は 2 つのプロジェクトチーム（PT60695-2-15:最終製品の炎封じ込め試験, PT 60695-2-20:ホットワイヤ試験）の協議が行われた他、WG12（着火と燃焼の広がり）、及び AG13（TC89 戦略）が開催された。また最終日の 10/13 には TC89 全体会議が行われた。以下、各 WG 及び PT のトピックスを、プラスチックに関係あるテーマを中心に述べる。

1. PT 60695-2-20（ホットワイヤ着火性試験）

ラウンドロビン試験結果の最終の取りまとめ中であり、11 月末までを期限としている。現在報告を得ている 4 試験所のデータより、3 検体中 2 検体の判定は同じクラスになることを確認したが、1 検体でドリッピングが起きる事によりクラスにばらつきが生じている。そこでドリッピングを判定基準に加えることを検討している。ラウンドロビン試験の結果を確認後、CD 文書を作成する計画に会議参加者は同意した。

2. PT60695-2-15（最終製品の炎封じ込め試験）

第 1 回ラウンドロビン試験の結果報告があり、IEC TS 60695-2-20 と同じサイズのニクロム線を着火源に使用したが試験中に焼き切れてしまう場合がある事を確認した。また、最終製品を模擬したプラスチックケース内で着火させるコネクタの着火開始時間を測定するため熱電対を挿入する指示をしたが、取り付け方及び着火した炎のからの距離の影響でばらつきが大きく、有用でないことを確認した。

次回第 2 回目のラウンドロビン試験では、ニクロムワイヤはライター用の仕様(Ni-Cr 80-20 20 AWG)に変更し、熱電対は不採用とする。プロジェクトリーダーが 11 月末までに実験計画を発信し、参加者を募集の上、次回 2018 年 5 月までに結果まとめる計画に、参加者は合意した。

3. WG12 会議（着火と燃焼の広がり）

(1) IEC TS 60695-11-11(非接触火炎による着火性試験)

製品評価技術基盤機構の火災事故調査から発案された本試験方法を IS にするための標準化で、今回の会議ではコメント募集文書(89/1372/DC)に寄せられた各国のコメントを審議した。コメントの大部分は編集上の語句修正であった。これらを反映させた CD 文書を 2017 年末までに各国に回覧し、2018 年 5 月の国際会議で審議することに参加者は合意した。

(2) IEC 60695-2-10, 11, 12, 13(グローワイヤ試験の一般手順、最終製品試験、及び材料の燃焼性、着火性試験)

前回改訂から時間が経ちメンテナンスレビューを行った。前回材料試験規格の改訂でドイツから指摘された、関連規格で使用している観察時間の記号と定義が整合していない問題を解決するため、これら 4 関連規格全てを同時改訂作業し、各試験に共通な観察事項は一般手順である-10 文書に移行する方針に参加者は合意した。

4. その他

AG13(議長諮問会議)及び総会で、IEC/TC89 に副議長のポストを置く事が提案され、前議長 Uberto Vercellotti(イタリア)が推薦された。イギリスとフランスが副議長の職務に疑問を呈したが ISO/IEC 専門業務用補足指針に従い議長が業務を遂行できない場合や議長の補佐が目的であることを明確にし

た。規定に従い任期3年で総会投票を行い、賛成9か国棄権2か国反対無しで IEC/TC89 は Vercellotti 氏を副議長に選出した。

なお、Vercellotti 氏はこの会議に先立って開催された IEC 標準管理評議会 (SMB) にて、顕著な活躍をした議長・幹事に贈られるトーマスエジソン賞の2017年受賞者として表彰された。

次回の会議は2018年5月15日～17日に、グルノーブル (フランス) で開催される。

報告：日本プラスチック工業連盟
電気材料安全・規格委員会 特別委員
春原 淳 (ポリプラスチック株式会社)